

オーギュスト・ルノワール

19世紀から20世紀前半に活躍したフランス印象派の画家。フランス中部のリモージュに生まれる。13歳で磁器工場の見習工として働き、20歳で画家になる決意をし、画塾に入った。ここでモネやシスレーらと知り合う。1874年、33歳のとき、モネら仲間とグループ展(後の第1回印象派展)に参加。第1回展は批評家からは酷評されたが、ルノワールの絵は比較的評価されたといわれている。代表作「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」は1877年の第3回展に出品されたものである。その後、ルノワールは、形態を重視する新古典主義に影響を受けた時期を経て、晩年は暖色を多用し、少女たちの愛らしい表情を描くぬくもりのある作風を確立した。